

2002年1月21日

環境大臣 川口順子 様

(財)日本野鳥の会道南檜山支部支部長 林 吉彦

「新・生物多様性国家戦略」に向けて

日頃より、優れた自然環境の保持と再生を目指し、自然環境行政に真摯に取り組んでおられることに敬意を表します。

さて、今回の新・生物多様性国家戦略立案にあたり、以下のことについて取り入れていただきたく、提言しますのでよろしくお願いいたします。

生物多様性国家戦略と言うとあたかも人間の側に立った戦略に見えますが、人間も多様な生物の一つであることを基本の立場においてこの戦略を立案推進していただきたい。

1．移入種...調査研究機関の設置

- ・ 渡島大島の移入種撲滅...同島はオオミズナギドリの北限生息地として天然記念物に指定されているが、いえウサギ、ドブネズミ、アメリカオニアザミをはじめとする移入種により危険な状況におかれている。
- ・ 大沼国定公園移入種撲滅...漁業に大打撃を与えるブラックバス等移入種持ち込みの法規制を強化するとともに、罰則規定も強化する。

2．全国メッシュで自然環境基礎調査の実施

現在、環境影響評価は事業計画後に行われているが、今後は、事業計画に関係無しに全国の自然環境の基礎調査をメッシュ毎に行い、データマップを作成する。事業を計画する段階でそのマップを元に立案する体制を確立する。

3．総合的河川流域管理

- ・ 上流の森林、農地、里山を保全することにより河川が保全され、下流の生活が支えられる。自然環境の修復、再生を一元化するため、縦割り行政の廃止と総合的管理体制の確立をし、生物の多様性を守る。
- ・ ダム、砂防ダムの環境に対する影響を解明する研究機関の設置。

4 . 環境ホルモンの監視モニター設置と情報公開

- ・この拡大は恐怖すべき段階に達している。日常摂取している食品に含まれる環境ホルモンについて監視するモニター調査を常時実施し、情報は全て公表する。

5 . 生物生息環境の保全...森林の連続化、干潟・湿地の保全と復元をすすめる

- ・シマアオジ、エゾライチョウ、シマフクロウ、タンチョウ等、保護の手を必要とする野生鳥獣のための繁殖事業の計画化。
- ・エゾヒグマなど野生生物の生態を維持するため、また遺伝劣化を防ぐために森林に幅6～10kmの「緑の回廊」を設ける。
- ・減農薬、無農薬有機栽培農業の推進を進め、メダカ、ホタル、ゲンゴロウなど身近な生き物の絶滅危惧種化を防ぐ。
- ・河川の生態系を守るため、「河畔林」の再生、「淵」や「瀬」「蛇行」のある流れを重視した護岸工事や災害復旧工事を進める。
- ・サケ、マス等の自然遡上、自然産卵を原則とし、それを孵化事業でカバーする。ウライによる河川の完全封鎖をやめ、海の栄養分の内陸部への回帰を回復する。
- ・減反政策で放置されている水田に水を張り、地下浸透、伏流水などを再生させる。
- ・ラン科植物をはじめとする絶滅危惧種、希少種の盗掘、採集に対する罰則の強化とパトロールの実施と増殖事業の実施。
- ・北海道最南端の「静狩湿原」の復元再生を図る。

6 . 全国を禁猟区化し、改めて狩猟区を設定する。また、銃猟の鉛弾の完全禁止。

7 . プラスチック汚染...原材料削減目標の設定、原材料輸送上のロスゼロ化対策を充実する。

8 . 自然エネルギー創出...研究費の大幅アップ

- ...自然エネルギー（太陽電池、風力発電など）事業の拡大
- ...風力発電事業推進にあたっては、渡り鳥コースを外し、ライトアップの禁止する。
- ...原子力発電は廃止の方向を明確にする。

9 . 消費者教育の充実...「生物多様性国家戦略」の目的達成のため、人材育成を進めると共に、国民に対する啓蒙活動の拡大充実を図る。

10 . 多様な樹種による森林育成

- ...ブナ林の保全をはじめ、地域に適合した樹種を重視した多様な森林育成を進め、水資源を含め国土保全を図る。

1 1 . 国際情報交流機関の設置

...近隣アジア諸国と「生物多様性国家戦略」を推進するため国際的な情報交流機関を設置する。